

## 【閉会式における仕分け委員の講評・感想】

### 【委員】

- 市民委員となって知識を広め、市政に対して自由に発言出来る機会を与えていただいたことを感謝したい。
- 市民委員が仕分け作業を的確にできたかというと感覚的なところがあり、力不足ということもある。市民の代表者である市議会議員には頑張っていたきたい。

### 【委員】

- 聴衆が少なく、手応えがあまり感じられなかったことは、我々の力不足と思っている。
- 事務事業の仕分けは良いことと思う。委員同士でも意見の違うことがあったが、東久留米市が良くなってほしいという思いは同じだと思っている。

### 【委員】

- 初めて仕分け市民委員として参加したが、極めて難しい会議であった。基準・方針等に基づくものではなく、各委員の感覚、データをもとに会議を進めてきたが、正しかったのかどうかは今後、議論してもらえればよいのではないか。
- 特定の分野に詳しくなれたことは、私にとって貴重な財産になったと思う。
- 行政・議員が市民と同じ様な問題意識を持ち、東久留米市全体の改善に向けて取り組むことをお願いしたい。

### 【委員】

- 地域主権改革という流れがあるが、市民参加が大きなテーマになっている。市民が参加した仕分け結果を反映しないと意味が無いので、行政になんらかの形で反映出来る様、頑張っていたきたい。
- 昨年度も仕分け市民委員だったが、昨年度の経験が生かされたと思う。
- 仕分けを毎年恒常的に行うこと、長年続けることは、市にとっても効果があるのではないか。来年度も是非仕分けを実施してほしい。

### 【委員】

- 各委員がそれぞれの得意分野で頑張っていた。
- 仕分け市民委員は当初 10 名の予定だったが、実際は 7 名しかいなかった。すぐに欠員 3 名を募集する様、市側へお願いしなければいけなかったと反省している。その結果、委員に過重な負担をかけたことお詫びしたい。
- 市の事務事業は、ほぼ同様の事柄に当たるのに複数の部門がある。縦割弊害と一般に言われるが、所管課は事務事業を続けなければならないと思い込んでいるのではないか。もう少し大きな視点で、整理・統合することを検討してほしい。

【委員】

○東久留米市は財政的にも苦しいので市民・市長・市議会が一体となって変える必要がある。

○私は経営者に「失敗しても構わないから実行しろ」とよく言われている。行政は失敗してはいけないことが多く躊躇してしまうが、まずは実行して加速することを願いたい。

【委員】

○自分が思っていたほど出来なかった。

○行政側からデータ・資料をいただいたが、非常にわかりにくくまとめづらい。市民に対してわかりやすいデータを情報提供していけば共通の認識が高まるのではないか。